



CSR Report 2009

<詳細版>

CSRレポート2009

編集にあたって

■編集方針

ロームは2000年度より環境報告書を発行し、2004年度からは報告範囲を社会的側面にまで拡大し、社会・環境報告書として発行してきました。2007年度からはタイトルをCSRレポートとし、ロームのCSR活動の状況をどの立場のステークホルダーの皆さまがご覧になっても、「見やすく・分かりやすく」なるよう心がけました。本報告書では、既述に加えさらに、ステークホルダーの皆さまがお知りになりたいと思われる情報をより開示するよう努め、充実したCSRレポートとなるよう編集しました。

■報告内容

CSRにかかわる基本的な体制、ロームにおける重点的な取り組みテーマを設定し、目標・実績ともに報告しています。なお、本報告書に記載できなかった環境面の詳細情報については、別途WEB上「環境データブック※」で開示します。

※2009年7月掲載予定

●報告対象範囲

ロームを中心に報告し、国内・海外関係会社の活動についても一部報告しています。また、特定の関係会社に限定される事象はその旨を明記しています。

●報告対象期間

2008年4月1日～2009年3月31日

ただし、理解度を深めていただくため、一部それ以前からの取り組みや直近の活動報告も必要に応じて記載しています。

参考にしたガイドライン

●Global Reporting Initiative

「サステナビリティ・レポート・ガイドライン2006」

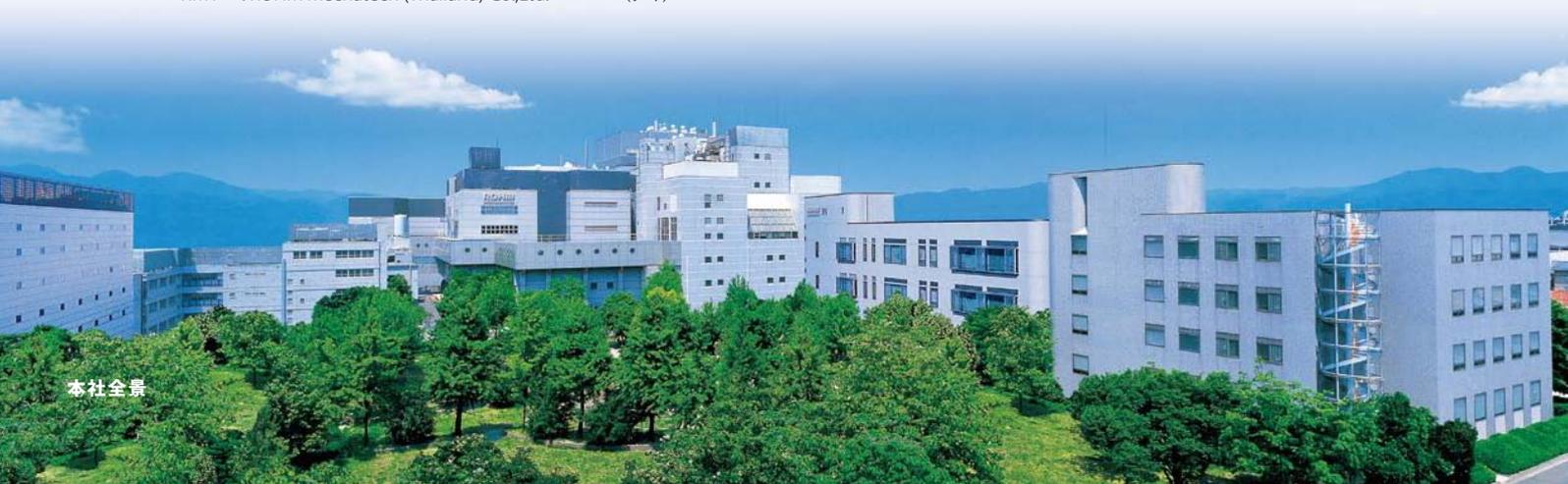
本報告書では、海外関係会社を下記のように記載しています。

REPI	: ROHM Electronics Philippines, Inc.	(フィリピン)
RIST	: ROHM Integrated Systems (Thailand) Co., Ltd.	(タイ)
RSC	: ROHM Semiconductor (China) Co., Ltd.	(中国)
REDA	: ROHM Electronics Dalian Co., Ltd.	(中国)
RWEM	: ROHM-Wako Electronics (Malaysia) Sdn. Bhd.	(マレーシア)
RMPI	: ROHM Mechatech Philippines, Inc.	(フィリピン)
RMT	: ROHM Mechatech (Thailand) Co., Ltd.	(タイ)

INDEX

事業活動の基本理念	2
トップメッセージ	3
ロームのCSR	4
【特集1】次世代のニーズに応える製品の創造	5
【特集2】社員のコミュニケーションと健康づくり	7
ロームグループの概要・現況	9
コーポレート・ガバナンス	10
コンプライアンス	11
情報セキュリティ/知的財産に対する取り組み	12
リスクマネジメント	13
ロームとステークホルダー	14
お客さまとのかかわりと品質へのこだわり	15
お取引先さまとのかかわり	17
社員とのかかわり	18
安全・衛生・健康	20
株主・投資家の皆さまとのかかわり	22
ロームグループの社会貢献活動	23
社会還元活動	24
豊かな心を育む社会・文化支援活動	25
環境への配慮	27
ロームグループ一覧	29
CSRレポートアンケート結果	30

[次回発行予定：2010年6月下旬の発行を予定]



事業活動の基本理念

ロームは、社会から信頼され、期待される企業であるために、創業当初からかかげている企業目的をすべての社員に浸透させています。

企業目的

われわれは、つねに品質を第一とする。

いかなる困難があろうとも、

良い商品を国の内外へ

永続かつ大量に供給し、

文化の進歩向上に

貢献することを目的とする。

さらにこの企業目的を達成するための重要な経営基本方針が事業活動の指針となり、あらゆる事業分野でその展開を図っています。

経営基本方針

社内一体となって、品質保証活動の徹底化を図り、適正な利潤を確保する。

世界をリードする商品をつくるために、あらゆる部門の固有技術を高め、

もって企業の発展を期する。

健全かつ安定な生活を確保し、豊かな人間性と知性をみがき、

もって社会に貢献する。

広く有能なる人材を求め、育成し、企業の恒久的な繁栄の礎とする。

創業以降、情報化社会の進展や価値観の多様化等、企業を取り巻く環境は変化していますが、これらの方針は不変かつ、事業活動の原動力となっています。

Top Message



2008年に創立50周年を迎えたロームは、企業目的である「われわれは、つねに品質を第一とする。いかなる困難があろうとも、良い商品を国の内外へ永続かつ大量に供給し、文化の進歩向上に貢献することを目的とする。」をもとに、創業当初より事業の業績向上と社会への貢献をつねに重視し、活動してまいりました。

これまで活動を続けてこられたのも、お客さま、お取引先さま、株主・投資家の皆さま、地域の皆さま、社員等、ロームを取り巻く様々なステークホルダーの皆さまのご支援があつてのことと、心より感謝申し上げます。

ロームは、2009年1月より新しいブランドマークを導入いたしました。このブランドマークには次のような気持ちが込められています。



1. 高い志を持ち自分の足で立つ。
2. 世界を広く見据える広い視野。
3. 未来を見通すまっすぐな視線。

50周年を迎えた今、社員一人ひとりが、企業目的に今一度立ち返って、その思いをしっかりと受け継ぎ守り、さらなる成長を遂げるために、「私たちの製品が社会に役立つことは何か?」を考え、つねに一步先を見て事業活動を進めてまいります。

ロームは、今後とも一層の社会的責任を果たすことで、ステークホルダーの皆さまとの良好な関係を築いてまいります。

多くの皆さまにこのレポートをご一読いただき、ロームグループの社会的責任への取り組み姿勢についてご理解いただければ幸いです。

ローム株式会社
代表取締役社長 佐藤 研一郎

ロームのCSR

「われわれは、つねに品質を第一とする」

これは、「企業目的」の第1行目に掲げられている文であり、まさにロームの根幹を示しているものです。品質とは単に製品の品質だけではなく、その製造プロセスの品質、さらにそこで働く人々・環境の品質のことであり、ロームはこれら人や職場さらに地域・地球への品質を第一としています。

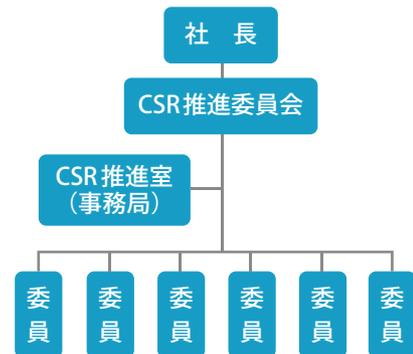
企業の社会的責任が益々問われている今日において、一人ひとりの社員が常に遵法精神と倫理観をもって、社会から信頼されつづけることが求められている中、ロームでは社員一人ひとりが「品質第一」を掲げるロームの代表として責任を持ち事業活動を行っています。

この経営理念である「企業目的」を指針とし、この思いをしっかりと受け継ぎ、守っていくことが、ロームのCSRであると考えます。

【CSR推進体制】

ロームでは、2007年12月より、品質・環境本部の下部組織である環境管理部の下にCSR推進室を設置し、CSR活動を推進しています。また、2008年6月にはCSR推進委員会をつくりました。この委員会は、社歴・性別にとらわれない多岐に渡る部門からの委員により構成され、あらゆる方面からの幅広い意見を取り入れた、ロームならではのCSRを目指して活動しています。

【CSR推進委員会推進体制】



【2008年度の取り組みと2009年度の目標・課題】

2008年度は、6月に発足したCSR推進委員会において、ロームとしてどの課題に重点的に力を入れていくかについて議論を重ねました。OKIセミコンダクタと統合し創立50周年を迎えた今こそ、次の50年のためにロームがCSR意識を強化し、創業精神を再認識することが必要となります。結果、委員会では社員のCSR意識を高めること、また社内及び社外でのコミュニケーションを深めていくことを決定しました。実際には、部門長クラスの社員を対象としたCSR教育・意識調査を行い、CSRの定着に努めました。2009年度は、引き続き全社員のCSRの認識・意識を高めるための活動を行うとともに、2008年度の調査結果をもとに、社内外でのコミュニケーションが深まるような取り組みを進めていく予定です。

★冊子でのご報告とWEB上でのご報告

ロームは本報告書より以下を目的とし、冊子でのダイジェスト版と、WEB上での詳細版によってロームのCSR活動をご報告させていただいております。

ダイジェスト版(本冊子)



- ・少しでも多くのステークホルダーの皆さまにご覧いただくこと
- ・印刷・配送等の環境負荷を低減すること
- ・多岐にわたるロームのCSR活動の中から、主要な取り組みに的を絞って分かりやすくお伝えすること

詳細版 ※WEB上に掲載



- ・多岐にわたるロームのCSR活動についてより深く知っていただくこと
- ・ステークホルダーの皆さまの関心のあるページを個別にご覧いただくこと

また、環境に関する詳細情報を独立させ、どの立場のステークホルダーの皆さまに対しても、より理解しやすい報告書となるよう心がけました。詳細版及び環境に関する詳細な情報はそれぞれ、ロームのホームページよりご覧いただけます。

[URL] <http://www.rohm.co.jp> ※環境に関する詳細な情報は2009年7月頃掲載予定です。

[特集1] 次世代のニーズに応える製品の創造

ロームは、お客さまの要望に対して受け身で開発を行うのではなく、お客さま、市場、そして未来を見据えて、「私たちの製品が社会に役立つことは何か?」と常に一步先を見て開発を進めています。



次の一步はバイオの分野へ。

血液1滴で、メタボリックシンドロームや感染症の診断ができる新検査システム。
ロームの技術が患者の負担を軽くしています。

微量血液分析システム“バナリスト”を開発

たった一滴の血液を吸い取って、チップごと測定機に装着。高速回転により遠心分離した血液を特殊なLEDの光で分析し、診断を行います。

<検査の手順> ※測定機はウシオ電機株式会社様の開発品です。

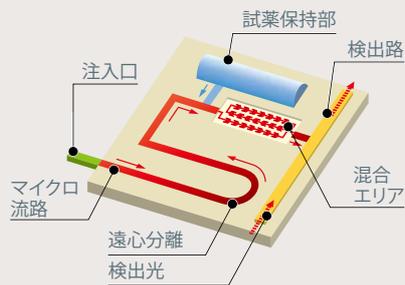


チップ

<特徴>

- ①小さなチップと卓上の測定機ですが、大型装置と同じ試薬と検査原理を用いているので、ベッドサイドでも即座に検査センターと同じ結果が得られます。
- ②チップ状の使い捨てタイプなので、廃液が出ず、感染のリスクも低くなります。
- ③ボタン一つワンタッチで測定できるので、検査技術の発展していない地域の医療の発展に貢献できます。
- ④洗浄いらずのメンテナンスフリーなので、水道設備が整っていない地域でも使用できます。

<メカニズム概念図>



小さな電子部品で培って来たモノづくりの技術を活かし、チップ内に検査のためのあらゆる機能を集積。チップの内部(縦5cm、横4cm、厚さ4.5mm)を最も細い部分で幅0.1mmに加工し、必要な血液量も従来の100分の1に抑えました。



研究開発本部
副本部長 神澤 公

バナリストは、例えば新生児検査の際、できるだけ少ない血液採取で短時間・高精度なその場測定を実現致しました。このバイオ技術により生活習慣病等の複数指標検査も手軽にできるようになります。さらに、バイオ分野の将来はナノテクノロジーやエレクトロニクス等との技術融合でガンやストレス等の検査や創薬等の応用展開も可能となります。

半導体で培った技術に新材料や異分野の技術を複合化することにより新しい機能(付加価値)を実現していきます。

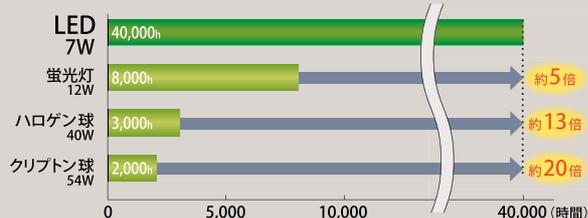
ロームは今後も「環境、安全(安心)、健康(医療)」をキーワードとした研究開発を行います。



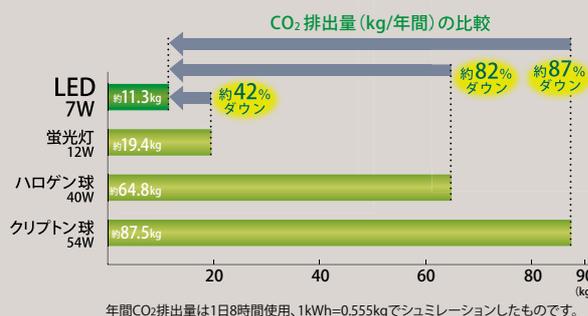
クオリティーを高め、環境負荷を軽減するあかりを求められる時代。
空間の用途に合わせて使い分けられるLED照明をロームは開発しています。



■LEDだから、長寿命。交換の手間も省けます。



■LEDだから、CO₂削減。
クリプトン球54W相当の明るさを7Wで実現。



地球環境保護意識が高まるなか、省電力タイプの照明が求められており、長寿命、低消費電力のLED照明は市場の拡大が期待されています。



ロームのLEDライティングを用いた店舗照明の例

LED

1973年の開発・販売以来、常に時代のニーズに応えるLEDを開発。素子組成レベルから研究開発を行い、年間50億個という世界トップクラスの生産量を誇っています。

LSI

業界最高クラスの電力変換効率を誇るロームのLEDドライバ・高精度調光機能等、LSIメーカーならではの技術を活かし、より快適なあかりへ進化させます。



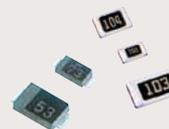
LED Lighting

Power Module

電気製品の待機時消費電力や動作時消費電力を削減する、AC/DCコンバータモジュールを開発。地球環境への負荷を軽減する、システムLSIメーカーならではの小型・高機能モジュールを実現しています。

Discrete

創業以来、トランジスタ・ダイオード・コンデンサなど、あかりに必要なディスプレイ製品を開発・販売。その技術は、幅広い分野で信頼と実績を重ねています。



【特集2】 社員のコミュニケーションと健康づくり

ロームでは、会社の礎となる社員が一体感を持ち、かつ健康づくりを推進するために、社内に「健康づくり委員会」を組織し、社員のコミュニケーションと健康づくりに役立つ様々な活動を積極的に行っています。



さらなる一体感へ。

目的に向かって一体となって突き進んできたローム。
チームワークを高め、次のステップへ向けて前進しています。

コミュニケーションアップのイベント

ロームとローム従業員組合は、労使で相互理解を深めながら事業を進めています。そのひとつとして社内一体感を醸成するため会社と組合の共催で様々なイベントを実施しています。

2008年度は「ロームスポーツフェスタ2008」と称して、玉入れや大縄跳び、三人四脚、ボールリレー等の競技によるミニ運動会と社員同士の交流を深めるための懇親会を開催。100名を超える参加者があり、部署・世代を超えた交流がはかれるようチーム編成を行ったことで、普段なかなか接する機会のない他部署の人とコミュニケーションを深めることができたことと参加者から大変好評でした。皆で大いに盛り上がり、とても有意義なイベントとなりました。



ローム・スポーツフェスタ2008 (2008.10.25)



ローム・スポーツフェスタ懇親会 (2008.10.25)



【参加者の声】

ローム・スポーツフェスタ2008

- 全員参加できるよう工夫されていた点良かった。
- 普段接する機会のない他部署の人と、交流を深めることが出来てとても良かった。
- 知らない人と同じグループになっても一緒に何かをするという目的があるので、話しやすかった。
- 日頃の運動不足解消とストレス発散にもなり、とても楽しかった。

仲間と一緒に汗を流す「ドッチビー大会」

ロームではスポーツイベント「ドッチビー大会」を毎年開催。第3回大会では職場の仲間や同期同士等で結成された22チーム合計260名を超える参加者がありました。

チーム対抗で優勝を目指し、白熱した試合が繰り広げられました。回を重ねるごとに参加者が増加しており、大変盛り上がるロームの恒例イベントとなっています。



第3回ドッチビー大会 (2008.6.28)



ドッチビーとは
柔らかい素材
でできたフリス



ビーを使ってドッチボール形式で行うスポーツで、当たっても痛くないので女性や子供でも安全に楽しむことができるスポーツです。

【参加者の声】

ドッチビー大会

- 男女ともに幅広い年齢の人が参加して、楽しめたことがよかった。
- 仕事以外の機会で他部署の人と話すことができ、新鮮だった。
- 職場のメンバーの素顔が見られたと思う。



元気な心と体で、輝く社員へ。

積極的な健康づくり活動で社員の健康度UP。
心と体、両方の健康を目指しています。

健康づくりセミナー・講習会

運動習慣の定着、生活習慣の改善、リラクゼーション等メンタルヘルスに関する意識高揚のために、社内で様々なセミナーや講習会を随時開催。社員が自分の体力を定期的に確認するために毎年社内で体力測定も実施しています。



ビヨンドマーシャルセミナー
(2008.6.17)



ボールエクササイズセミナー
(2008.8.22)



体内対話～ZEN呼吸法セミナー
(2008.10.21)



メタボ対策講習会
(2008.9.17)

34回目を迎えた「歩こう会」

ロームの代表的な行事である「歩こう会」は、毎年春と秋に開催。社員やその家族等約200名の参加者があり、季節や景色を満喫しながら数キロ歩いた後、皆で様々なゲームやイベント等で盛り上がり、楽しく健康的な休日を過ごします。「歩こう会」は2009年4月で34回目を迎えました。



哲学の道～京都御苑コース
(2008.4.12)



山科～皇子ヶ丘公園コース
(2008.10.4)

海外のグループ会社でも、楽しみながらできる健康づくりイベントやセミナーを開催しています。



ベリーダンス/REPI
(2008.11.20)



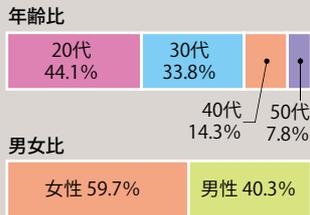
バドミントン大会/RWEM
(2008.6.1～5)



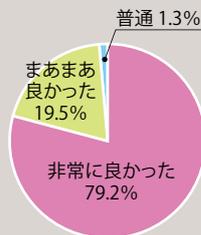
ミッドイヤーアクティビティ/RIST (2008.9.17)



【参加者構成】



【参加者満足度】



ロームでは様々な健康づくりイベントやセミナーを開催していますが、健康の保持増進やストレス解消につながるだけでなく、一緒に体を動かすことによりコミュニケーションも深まるという効果もあるため、仕事をスムーズに進める上でもその繋がりは非常に役立っています。今後も皆で楽しみながら健康づくりができるイベントやセミナーを開催していきたいと思えます。

環境管理部 安全衛生管理室
チーフ 松村瑠衣子

ロームグループの概要・現況

商号 ローム株式会社／ROHM Co., Ltd.
 所在地 本社／〒615-8585 京都市右京区西院溝崎町21
 TEL:(075)311-2121
 FAX:(075)315-0172
 設立 1958(昭和33)年9月17日
 資本金 86,969百万円(2009年3月31日現在)
 代表者 代表取締役社長／佐藤 研一郎
 従業員数 単独 3,144人(2009年3月31日現在)
 連結 22,034人(2009年3月31日現在)
 売上高 単独 247,537百万円(2009年3月期)
 連結 317,140百万円(2009年3月期)

生産品目

集積回路(IC/LSI)

- パワーレギュレータIC
- パワードライバIC
- コミュニケーションLSI
- ワイヤレスLSI
- ビデオ／グラフィックLSI
- オーディオ／サウンドLSI
- ディスプレイLSI
- マイクロコントローラ
- メモリLSI
- スタンダードIC
- センサIC

受動部品

- 抵抗器
- タンタルコンデンサ
- EMI フィルタ

個別半導体

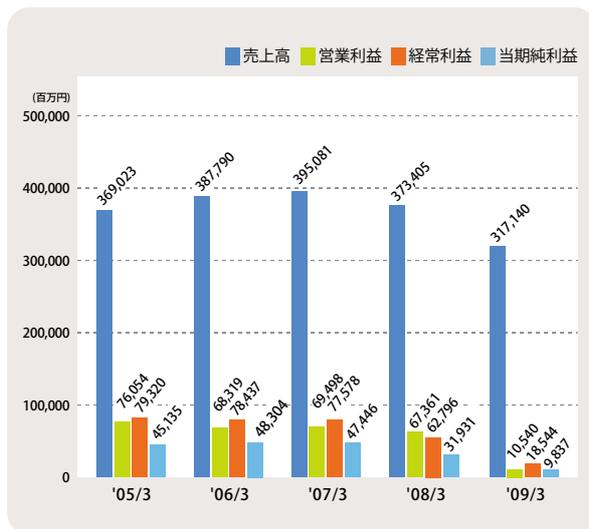
- ディスクリット半導体
- トランジスタ
- ダイオード
- 光半導体
- LED
- 半導体レーザ
- 光センサ
- フォトリソグモジュール

モジュール部品

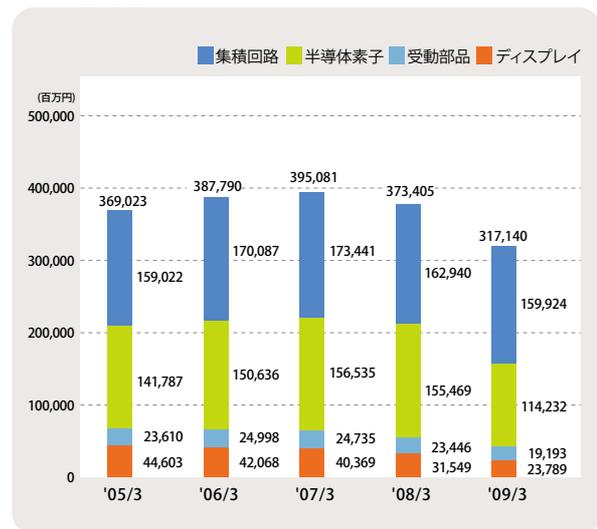
- パワーモジュール
- プリントヘッド
- LED ディスプレイ
- LED ライティングモジュール
- バイオチップ

業績の概要

【業績】



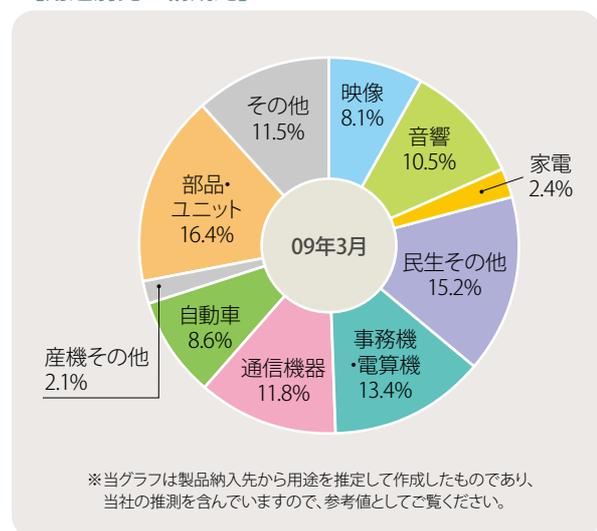
【部門別売上高】



【地域別売上高・海外売上比率】



【用途別売上構成比】



コンプライアンス

企業の社会的責任が厳しく問われる現在、企業が社会を構成する一員として、将来にわたって存続、発展していくためには、法令や倫理を遵守することが不可欠です。また、ロームの経営基本方針である「品質保証活動の徹底を図り、適正な利潤を確保する」には、すべての役員・社員が、高い倫理観をもって、公平かつ公正な企業活動を行うことが大前提となります。

ロームグループでは、このような考えの下、コンプライアンスをグループの重要課題のひとつととらえ、グループ内の役員・社員一人ひとりが、常に法令・企業倫理を確実に遵守し、社会の良識に基づき、日々誠実に事業遂行するよう努めています。また、社内規定の整備をはじめとするコンプライアンス体制の確立に努めるほか、様々な施策を通じ、かつあらゆる機会を活用して社内啓蒙活動を行い、海外を含めた全ロームグループにおけるコンプライアンスの徹底・強化を図っています。



コンプライアンス・カード

【2008年度の取り組みと2009年度の目標・課題】

2008年度には、コンプライアンス・ホットラインのより一層の利用促進のため、相談・通報先等を記載したコンプライアンス・カードを作成し、ローム本社及び国内関係会社の全社員に配布しました。さらに、「コンプライアンス・ホットライン対応ROOM」を設置し、相談・通報者のプライバシー保護を図っています。また、新入社員から管理職、コンプライアンス・リーダーに至る各階層に対して、コンプライアンス研修を実施しました。

2009年度の新たな取り組みとしては、コンプライアンスに関する意識調査、インサイダー取引防止等の個別テーマについての研修の充実等を予定しています。また、海外関係会社におけるコンプライアンス・リーダー設置等のコンプライアンス体制の充実を検討していきます。



コンプライアンス研修風景
(2009.2.27)

ロームのコンプライアンス体制について

■ コンプライアンス委員会の設置

ロームでは、企業として求められる適切なコンプライアンス体制を確立、維持し、また啓蒙、推進するため、取締役を委員長とするコンプライアンス委員会を設置し、コンプライアンス違反の防止を図っています。なお、監査役及び監査室長もオブザーバーとして委員会に出席し、日常の業務監査との連携を図っています。

■ コンプライアンス・リーダーの設置

ローム本社及び国内関係会社においては、コンプライアンス委員会の下、各部門ごとにコンプライアンス・リーダー及びサブリーダーを設置し、企業活動の現場におけるコンプライアンスのより一層の徹底を図っています。

■ 相談・通報窓口の設置

ロームでは、ロームグループでのコンプライアンス違反に関する相談に応じ、また違反等の情報をいち早く把握し、適切に対応するため、コンプライアンス・ホットラインを設置し、コンプライアンス・カード配布や社内報を通じて全社員に周知しています。このホットラインを通じた相談・通報者については、公益通報者保護法の趣旨に則り、相談・通報したことによる不利益が生じないよう社内規定を定めています。

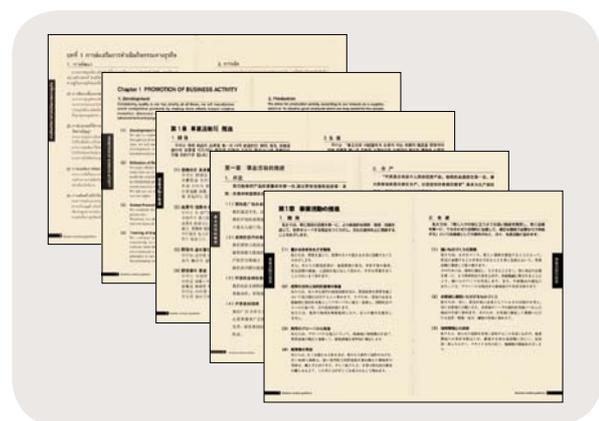
■ ロームグループ行動指針

ロームは、日々の事業活動の中で遵守すべき倫理上の基本的なルールを明らかにした「ロームグループ行動指針」をローム本社、国内関係会社のみならず、英語・中国語・韓国語・タイ語・ドイツ語・フランス語・マレーシア語・台湾語へ翻訳し、

海外関係会社を含むすべての役員・社員へ配布したうえで、これを遵守する旨の誓約書の提出を受けています。

また、社内規定の整備を進め、例えば、社内での不当な差別やセクシャル・ハラスメント、パワー・ハラスメントの禁止、強制労働・児童労働の禁止、インサイダー取引の禁止、反社会的勢力との取引の禁止、贈収賄の禁止、政治資金を含む寄付金についての適正な手続き遵守等が、全ロームグループにおいて徹底されるよう努めています。

【ロームグループ行動指針】



■ 社内啓蒙活動

ロームでは、新入社員から主任、係長、部課長クラスを対象とした各階層ごとのコンプライアンス研修のほか、社内報におけるコンプライアンス違反事例のわかりやすい解説の連載等、社内での継続的なコンプライアンス啓蒙活動の実施に努めています。

情報セキュリティ／知的財産に対する取り組み

情報セキュリティ

セキュリティ施策の関心が高まる中、ロームではセキュリティの維持・向上を常に考えています。

【2008年度の取り組みと2009年度の目標・課題】

2008年度は、ロームグループとセキュリティレベルの異なるOKIセミコンダクタのシステム統合を実施しました。2009年度には、OKIセミコンダクタ単独でセキュリティを維持できる環境を構築し、今以上のさらなるセキュリティ向上を目指します。

■ 秘密情報保護の徹底

ロームでは、お客さまの個人情報及びプライバシーにかかる事項につき、「個人情報の保護に関する法律」及び「個人情報の保護に関する法律についての経済産業分野を対象とするガイドライン」等に基づいて、個人情報の利用目的を明確にし、適正に取得し、安全かつ正確に管理しています。さらに、自社の秘密情報はもとより、契約に基づき入手したお客さまの秘密情報も適切に保護するよう、情報セキュリティポリシーを策定し、セキュリティ事故防止に対する仕組み作りや、全社員に対しての意識向上に取り組んでいます。

■ OKIセミコンダクタ統合における、企業統治に関する機密情報保護徹底の活動

OKIセミコンダクタのロームグループへの統合により、短期間で様々なシステム統廃合の必要がありましたが、OKIセミコンダクタに対しても、今までのロームグループと同等レベルのセキュリティ確保を実現しています。

2008年度OKIセミコンダクタ統合によるシステム変更ポイント

- ①ローム社内業務システムの展開
- ②内線・EDI^{※1} システム等のインフラ構築
- ③旧沖電気社内システムの切り離し
- ④国内及び海外WAN^{※2} 環境構築

※1 EDI: Electronic Data Interchange。商取引に関する情報を標準的な書式に統一して企業間で電子的に交換する仕組み。

※2 WAN: Wide Area Network。LANと比較して広範囲に及ぶネットワークのこと。

知的財産に対する取り組み

ロームは、特許を中心とする知的財産権の適正な確保と運用が、お客さまにローム製品を安心して使用していただくために不可欠との考えから、発明の届出を積極的に奨励するとともに国内外に多くの特許出願を行っています。また、他社の知的財産権を尊重するとともに、お客さまの利益を損なうような他社からの知的財産権の行使に対しては、一体となってお客様の利益を守っていく体制をつくっています。

【2008年度の取り組みと2009年度の目標・課題】

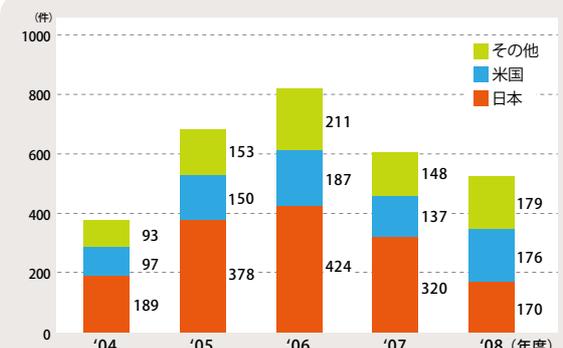
2008年度は上記の考え方に従い、積極的に出願、権利化を推進してきました。その結果、2008年現在で日本特許2,300件、海外特許は米国特許約2,000件を中心に多くの有用な特許を保有しています。2009年度はより効率的な特許取得を目指し、出願を厳選し、真の使える特許を取得するよう邁進していきたいと考えています。

■ ローム社員に対する特許教育

ロームでは、特許等の知的財産についての意識向上や、発明発掘から権利行使までの一貫した権利取得を定着させることを目的として、教育を行っています。

例えば、新入社員への入社時研修における知的財産の必要性に関する研修や、必要に応じて部内研修や開発部門への研修を行っています。

【特許出願件数の推移】



※'07年度以降、届出された発明の中から真に有効な特許のみを厳選し出願しているため、減少しています。

リスクマネジメント

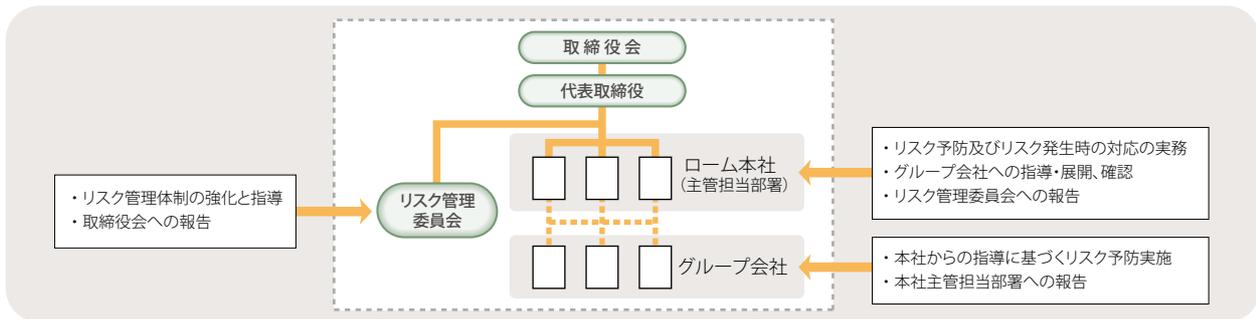
ロームでは、リスク管理が、ロームグループのコーポレート・ガバナンスに関わる重要事項であることを認識し、経営に重大な影響を及ぼすリスクの予防に努め、もってリスク発生による企業としての損失を最小限に止めるよう努めています。

また、リスク管理規定において重要なリスクを、品質異常、生産、物流、自然災害、情報通信、人事、財務等の分野ごとに定義づけており、リスクに関わる主管担当部署が、グループ会社を含めてこれらを管理しています。重要なリスクやリスク予防体制はリスク管理委員会が確認をする体制となっています。

【2008年度の取り組みと2009年度の目標・課題】

2008年度はリスク管理委員会を通じて会社の運営・業務・財産に多大な影響を及ぼす恐れのある重要なリスクと、その適切な管理体制の強化に取り組んできました。さらに、グループ全体でその情報を共有化しています。2009年度も同様の取り組みを継続し、リスク発生による損失を最小限に止めるよう引き続き努めていきます。

【リスク管理体制】



災害への備え

■ 防火・防災管理体制と自主防火パトロールの実施

防火対策委員会と専門部会によるパトロールと会議及び職場ごとの火元責任者等による自主点検によって防火管理の強化を図り、火災・災害リスクの低減を推進しています。



防火対策委員会による全社防火パトロール(2008.11.13)

■ 京都市長から「優秀自主防火事業所」表彰を受賞

ローム本社では日頃の自主防火防災活動に特に尽力したとして、2009年「消防記念日」表彰式において京都市長から「優秀自主防火事業所」表彰を受賞しました。



京都市長から「優秀自主防火事業所」表彰受賞(2009.3.8)

■ 自衛消防隊組織の編成と防火・防災訓練

有事に備えて自衛消防隊組織を編成し、各社の状況に応じて小型動力ポンプ、化学防護服、防災防火衣、救助資機材等、火災や地震等の災害に対応した装備を配備しています。また、災害発生時に迅速かつ適切な活動ができるよう火災や地震を想定した実践的な消火訓練、総合避難訓練、危険物を取扱うクリーンルームでの訓練も実施しています。各地域の訓練大会や総合防災訓練にも参加して地域防災への協力を努めています。



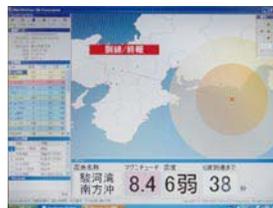
自衛消防隊訓練/REPI(2008.9.15)



事業継続マネジメント(BCM)への取り組み

■ 地震への初期対応について

社員、来客の安全確保のため緊急地震速報を活用した一斉緊急放送を導入し、社内定着のために訓練放送を実施しています。また、防災倉庫を設置し、救助資機材をはじめ事業復旧に向けての食料品、生活用品等を備蓄しています。



緊急地震速報の受信画面



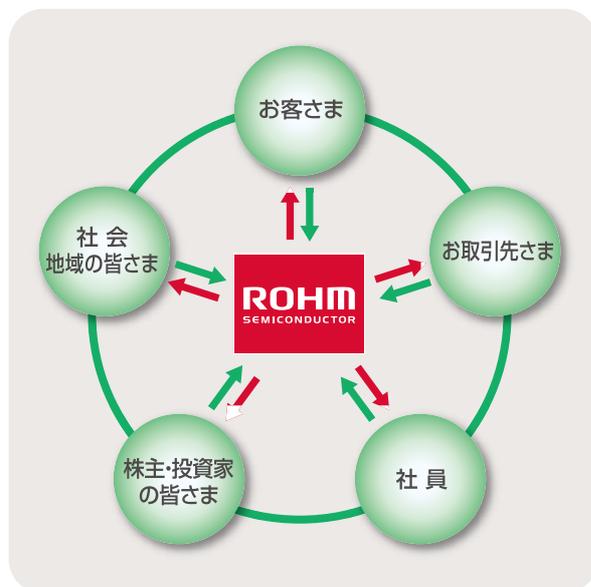
防災倉庫に格納された備蓄品

ロームとステークホルダー

ステークホルダーとのかかわり

企業は、それを取り巻くあらゆるステークホルダーの信頼と協力を得ることなくしては、その事業活動を成り立たせることはできません。そのため、ロームは、永続的かつ総合的な企業価値の創造と向上を目指すためには、すべてのステークホルダーとの間で良好な関係を構築し、協力し合うことが不可欠であると考えています。また、企業の生み出す利潤が、株主・社員・地域社会その他、企業を取り巻くすべてのステークホルダーと、競争力を強化する事業投資のための企業自体の内部留保とに、それぞれ適切な配分で還元されるのが肝要であると考えています。このような考えのもと、ロームは、日々、ステークホルダーとの間で良好な関係を築いていくことを目指しています。

【ロームとステークホルダー】



■ お客様

「つねに品質を第一とする」との企業目的のもと、優れた品質、性能を有する製品と適時的確なサービスを安定的に供給することにより、お客様の満足と信頼を得ることを目指しています。また、お客様への誠実な対応を心がけ、お客様の声を積極的に伺い、これを社内に反映させるよう努めています。さらに、製品の安全性を最優先し、それに関する情報の適切な開示に努めています。

■ お取引先さま

材料・半成品等の購入に際しては、国内外に広く門戸を開き、公正で合理的な基準によってお取引先さまを選定しています。また、関連法令を遵守した上で、お取引先さまとの信頼関係を大切に、対等かつ公平な取引を行っています。さらに公正な取引により、お互いが繁栄することを目指しています。

■ 社員

適材適所の観点から社員を適切に配置することにより、一人ひとりの社員が専門性を活かし、主体性を発揮できる「自己実現企業」を目指しています。また、安全で働きやすい職場環境を確保するとともに、人間性と個性を尊重し、公正で明るい職場づくりに努めています。

■ 株主・投資家の皆さま

継続的な企業価値の向上を実現させ、適正な利潤を確保することにより、株主・投資家の皆さまへ還元することを目指しています。また、国内外の投資家向け説明会やインターネットを通じた財務情報の提供等、積極的かつ幅広いIR活動を通じて、説明責任を果たしています。

■ 社会・地域の皆さま

地域社会との交流を深めるとともに、社会貢献活動や文化・芸術・スポーツ活動、また、その支援活動を実施しています。さらに、世界中のあらゆる拠点において、日々の事業活動を通じ、地球環境保全のための活動を積極的に行っています。

お客さまとのかかわりと品質へのこだわり

お客さまの求められる性能と機能を有した製品を適時に安定的にお届けするとともに、優れた品質により安心してお使いいただき、信頼されるローム製品でありつづけることがロームの使命と考えています。

【2008年度の取り組みと2009年度の目標・課題】

2008年度は、安定したものづくりのために4M^{※1}の固定化と徹底した変更管理を行うとともに、工程や市場からの品質情報をもとに改善点の水平展開に取り組んできました。

2009年度、私たちは「品質は「思いやり」である。」をスローガンとして活動していきます。

創業以来、掲げてきた「われわれは、つねに品質を第一とする…」の企業目的を初心にかえて実践するため、経営方針の一つを「品質第一」と定めて新製品の設計審査や変更管理の徹底により十分な工程能力^{※2}のある次世代の品質レベルをめざしてチャレンジしていきます。

※1 4M：MAN(人)、MACHINE(設備)、MATERIAL(材料)、METHOD(方法)

※2 工程能力：その工程で生産された製品が、どの程度決められた規格を満足できるか知る指標

【品質管理基本方針】

- 社内標準化を全社的に推進し、データによる管理体制を確立する。
- 総合的かつ継続的な調査活動を行い、新技術、新製品の開発に努める。
- 企業活動のあらゆる分野において、統計的方法を積極的に活用する。
- すべての工程において、品質保証の体制を確立する。
- つねに生産方式の近代化を図り、製品のコスト低減に努める。
- 材料、半成品の購入に際しては、契約によって納入者に品質保証をさせること。

創業以来、私たちは品質第一を企業目的に掲げてお客さまへ良い製品をお届けできるよう全部門の連携協力のもと、品質改善活動を展開しています。また、お届けしたローム製品がお客さまのお役に立ち、文化の進歩向上に少しでも貢献できることが私たちの希望でありロームの企業経営の基本理念となっています。

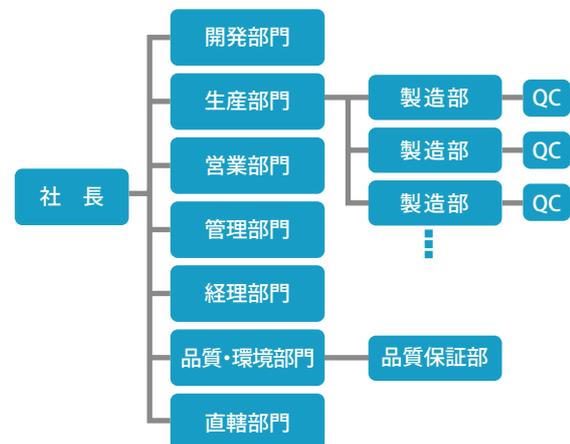
品質管理体制

ロームでは、社長の下に開発部門、生産部門、営業部門、管理部門、経理部門、品質・環境部門、直轄部門が組織されています。生産部門内には、製品(LSI, TR, LED等)に対応した製造部が置かれ、日常の品質、コスト、納期についての管理業務を担っています。各製造部内にはQC部門があり、各製品の環境、品質保証全般を担当します。

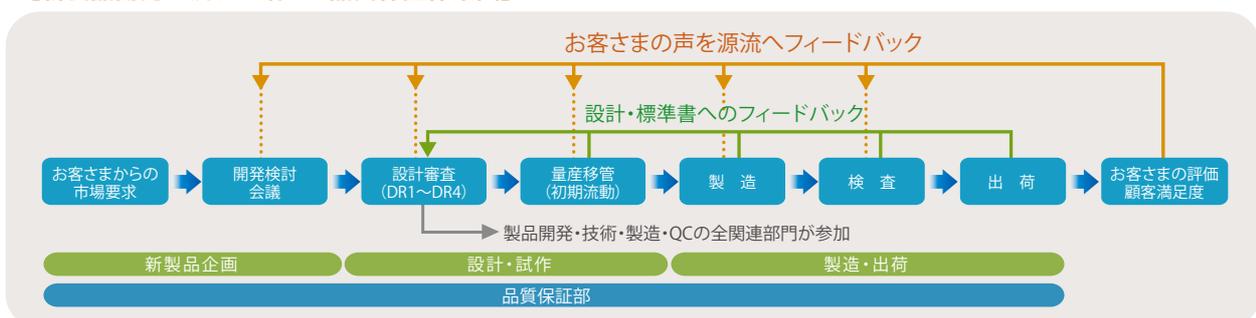
品質・環境部門には品質保証部が組織されており、製造部や本部の枠を越えた全社に関わる品質システムの構築や情報展開と製造部QC部門の業務監視を行っています。

新製品開発時には、お客さまのご要求を満足する安全で信頼のおける製品をタイムリーに世に送り出すために4段階の設計審査、初期流動、量産の各段階の評価を行い、改善情報は上流にフィードバックされて逐次対処されると同時に次期設計に展開される仕組みになっています。

【品質管理推進体制】



【新製品開発の流れに沿った品質保証体系図】

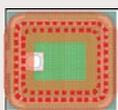


■ 壊れない製品づくり

小さな形状の中に、多くの機能を盛り込んだ半導体部品は、一般に壊れやすいものです。

ロームではこの問題に挑戦し壊れない製品づくりに取り組んでいます。トランジスタでは静電気により部品が壊れることを防ぐために保護機能を盛り込んだ高耐圧トランジスタを開発し、またLSIでは、専門チームが過酷な条件下でも壊れない回路の開発や保護回路導入を促進し、長期に渡り安心してご使用いただける製品の提供をおこなっています。

【高耐圧トランジスタ】



独自の外周保護Di構造により、高静電破壊耐量を実現

【WセルEEPROMメモリー】

従来の構造



W-Cell構造



万一、内部の一部が破壊した場合でも代替えできる素子や回路をあらかじめ組み込んでおくことで機能を維持できる構造にしています。

■ 徹底した品質管理教育

製品の設計、生産、販売、お客さま支援のあらゆる面で品質第一を実践するために、ロームでは品質管理の社員教育に積極的に取り組んでいます。QC手法、信頼性技術等の知識はもとより、「次工程はお客さま」、「品質は思いやり」との精神に則り社内取り組みと誠意ある顧客対応ができる人材育成を目指しています。



社内品質管理教育風景(2008.5.12)

【工場での教育】

各工場では、ほぼ毎日、品質に関する教育を行っています。



教育訓練風景



教育道場

■ ワールドワイドのお客さま対応クレーム 即日対応(24時間以内のクレーム回答)

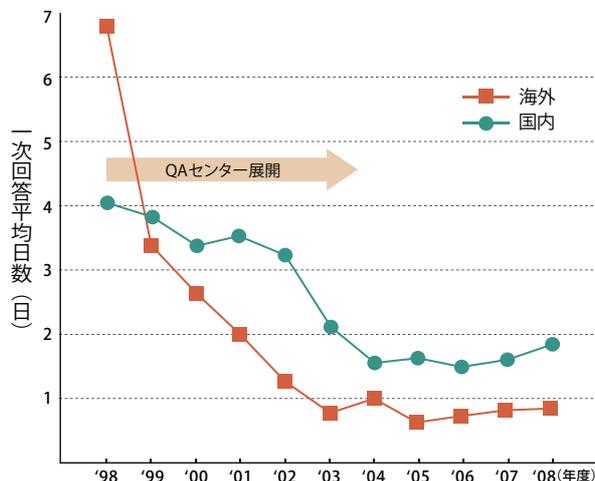
世界中のお客さまに迅速かつ密着した対応をさせていただくために、世界の主な拠点9箇所にQA*センター(本社は含まない)と名づけた各種解析装置を保有した製品解析センターを設置しています。技術対応のできるスタッフが地域に密着した対応をさせていただくとともに、日々解析技術レベルの向上に努めています。製品不具合情報をいただいた場合には、24時間以内にお客さまにクレーム回答を実施することを目標として活動しています。ローム本社を中心に各拠点はTV会議システムでつながれタイムリーな情報共有ができる体制を整えお客さまのご要望にお答えしています。

※QA: Quality Assurance (品質保証)

【QAセンターの設置】



【クレーム回答日数の推移】



※一次回答の内容充実のため、若干時間が増加しています。

お取引先さまとのかわり

ロームの企業目的は、つねに品質を第一とすることです。この基本理念のもと、国内・海外全てのお取引先さまとともに、人類の健康的な存続と社会への貢献を目指しています。

【2008年度の取り組みと2009年度の目標・課題】

2008年度は、CSR活動の推進を目的として、下記CSRの内容を盛り込んだ取引基本契約書の締結を進めてきました。2009年度は、引き続き全てのお取引先さまとの取引基本契約書の締結完了を目指すとともに、下記の項目をCSRの推進項目と定め、お取引先さまに対しても、CSRに配慮した事業活動を積極的に行なっていただけるようお願いしていきます。

CSRに関するお取引先さまへのお願い

- | | |
|--------------|--------------------------|
| I. 人権・労働 | …強制的な労働の禁止等 |
| II. 安全衛生 | …機械装置の安全対策、職場の安全・衛生等 |
| III. 環境 | …製品に含有する化学物質の管理等 |
| IV. 公正取引・倫理 | …優越的地位の濫用の禁止等 |
| V. 品質・安全性 | …製品安全性の確保等 |
| VI. 情報セキュリティ | …コンピュータ・ネットワークの脅威に対する防御等 |
| VII. 社会貢献 | …社会・地域への貢献等 |

調達方針

ロームでは、以下の項目をロームグループの調達方針として定め、お取引先さまからご理解をいただいています。

～ロームグループ調達方針～

1. 関係法令を遵守し、環境保全・資源保護に配慮した取引を目指します。
2. お取引先さまに対しては、常に対等な立場で接し、公平正大な取引を目指します。
3. お取引先さまとのコミュニケーションを大切にし、良好な関係づくりを目指します。

お取引先さま選定基準

1. ロームグループの基本的な考え方を理解していただけること
2. 健全な事業経営を推進していること
3. 品質・納期・安定供給を保証していただけること
4. 競争力のある価格であること
5. 優れた技術と新規性がある開発力を有していること
6. サービス、情報提供に協力的であること
7. 環境保全へ積極的に活動していること
8. CSRを積極的に推進していること
9. 企業倫理が浸透していること

CSR調達

ロームグループでは、お取引先さまに対しての工場監査結果、環境評価認定結果、ISO取得状況等をチェック項目に加え、定期的にお取引先評価を行っています。

また、公正な取引を実現するため、2003年に新・下請法遵守マニュアルの改訂を行い、ロームグループの購買部門並びに関連部門の社員を対象に、下請代金支払遅延等防止法の勉強会を実施し、下請法遵守の徹底を行っています。



海外での監査の様子 (RIST)
(2008.7.11)



同左
(2008.10.10)

【新・下請法遵守マニュアル】



社員とのかかわり

企業の恒久的な繁栄の礎となるのが、社員一人ひとりの力です。社員の人格を尊重し、適材適所に努めることにより、社員の専門性を活かし、主体性を発揮できる「自己実現企業」を目指します。

【2008年度の取り組みと2009年度の目標・課題】

社員のモチベーション向上を図るために、多角的な取り組みを行ってきました。今年度の企業業績の回復は、社員の総力の結集にかかっていると考え、さらに社員の創意を引き出す環境づくりに努めていきます。

■ 社員の意欲にこたえる人事制度

ロームは、年齢や性別に関係なく実力のある人材を積極的に登用し、社員の意欲を業績につなげています。業績に大きく貢献した社員に対しては社長賞として最高1,500万円の表彰金を贈呈する等、社員の創意を引き出し、成果に適切に報いる仕組みを取り入れています。2008年度社長賞表彰式では、約300件の表彰を行いました。また、社員意識調査を継続実施し、調査結果を社内報等で社員へフィードバックするとともに、社員の要望を人事施策に取り入れています。



社長賞表彰式 (2009.1.30)

■ 人権尊重について

ロームは、国際労働機関 (ILO) による「労働における基本原則及び権利」を尊重し、ロームグループ全体のスタンダードとして強制労働や児童労働の禁止、機会均等と多様性の尊重、性別・年齢・国籍・人種・民族・信条・宗教・社会的身分及び身体障害を理由とした不当な差別の禁止、結社の自由及び団体交渉の自由を規定し、一人ひとりの人権を尊重しています。また、京都人権啓発企業連絡会に加盟し、積極的に人権啓発活動に参加しています。2008年度は11月8日・9日の「世界人権宣言60周年 京都ヒューマンフェスタ2008」に加盟会社の一員として参加し、同会のPR活動を行いました。

■ 充実の福利厚生制度

ロームでは、社員が安心して働ける環境づくりをめざして、福利厚生制度の充実を進めています。社員食堂では社員の健康増進のため、低カロリーで栄養価のバランスのとれた「リコレクトメニュー」を提供するなど、社員の要望に合った新メニューの提供を積極的に行っています。また、2009年度からは、会社・従業員組合・食堂会社によって構成された「食生活向上委員会」の体制を強化し、各職場から寄せられた社員の声をメニューに活かすほか、「食育」にも力を入れ、啓蒙していきます。

社員参加イベントとして、2008年度も社員とご家族向けに「夏休み親子電子工作教室」を京都本社及び新横浜で開催しました(8月9日、23日)。今年のテーマは「エコ」で、太陽電池や牛乳パックを利用してラジオや車を作り、ロームの「エコ」への取り組みを紙芝居にしてわかりやすく紹介しました。



電子工作教室 (2008.8.9)



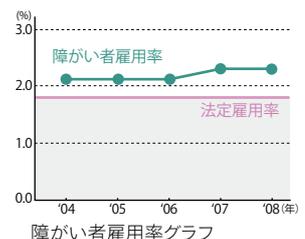
同左

■ ノーマライゼーションへの取り組み

2008年度の障がい者雇用率は、ロームグループ全体で2.3%を確保しました。ロームグループ全体の障がい者雇用率は2004年以来5年連続で、2%以上をキープしています。障がい者雇用率の安定を図るため、ロームでは2006年11月に障がい者社員のモチベーション向上、安定した雇用の提供を図るため、昇給制度、評価制度を導入した結果、定着率が大幅に改善されています。



職場の様子



障がい者雇用率グラフ

■ 教育制度

人材育成の日々の実践をうたった「教育訓練基本目標」、「教育訓練基本方針」のもと、新入社員研修・階層別研修はもとより、専門性を高める教育プログラムを備えています。2008年度の階層別教育では受講者は社員の約23%にのぼり、研修の受講者アンケートで「満足」との回答が8割



3年目フォローアップ研修 (2009.1.22)

を超えています。今後もさらに、社員のスキルアップのためのカリキュラム開発を進めていきます。



新任係長研修の様子 (2008.11.20)

■ 社員のアイデアを活かす

ロームでは社員のアイデアを業務に活かすため、改善提案活動を積極的に行っています。業務改善にとどまらず、日常のちょっとした「気づき」も積極的に応募を奨励し、「最多エントリー賞」、役立つ情報は「知っ得賞」、抜群にわかりやすいイラストの提案には「イラスト賞」等ユニークな賞を設けて、社員の応募意欲が高まる工夫を取り入れています。昨年度の「改善提案コンテスト」では、応募総数約1300件を改善提案委員会にて審査し、約800件の受賞テーマを選んで表彰しました。



改善提案コンテスト (2008.8.18~9.8)



受賞例の紹介 (2008.12.24)

フォローアップ研修を受けて

入社して一年目でLSIの新機種開発に携わり、三年目でその機種のシリーズ展開を行っていた時期にフォローアップ研修を受けました。この研修では、入社してから現在までの仕事内容を振り返り、今後のステップを考えます。入社して三年が経過した時期に改めて自分自身と向き合うことで、漠然としていた自身のキャリアデザインへの意欲が高まり、能力開発の目標を明確にすることができました。

また、普段交流を持たない部署の同年代の社員と話し合うことで、それぞれ違った持ち場の中での働きを知り、自身の役割を再認識することができました。仕



KTC LSI 開発本部
石松 祐司

事を行う上で壁にぶつかった際、多種多様な仕事内容に適応する共通な問題の解決方法を知ることができ、職種にこだわらない総合的な視点で考える力が身についたと思います。

【大学との共同による日本語研修プロジェクト】

タイの関係会社であるRIST (ROHM Integrated Systems (Thailand) Co., Ltd.) では、タイ国立タマサート大学と提携し日本語研修プロジェクトを立ち上げました。タマサート大学は数多くの優秀な人材を輩出している名門大学であり、日本語教育においても20年以上の歴史があります。今回のプロジェクトは、社員を対象に、大学と共同策定した研修プログラムを社内を受講するものです。2007年11月から半年単位のカリキュラムをスタートし、年間約130名の社



タマサート大学修了証 (2008.5.6)

員が受講する計画です。2008年5月には第一カリキュラムが修了し、修了者にはタマサート大学から修了証が授与されました。

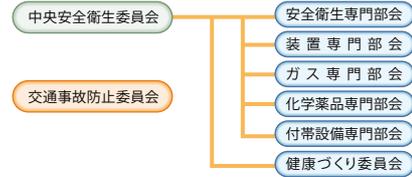
「品質第一」を企業目的に掲げる中で、海外事業において現地社員の日本語能力を高め、コミュニケーションを円滑に行うことは、極めて重要なポイントです。また、この活動は一流大学の高水準の教育を受けられることによる社員のモラル向上や、日本・タイ間の相互理解にも繋がると考えています。



左 / RIST 人事課 中島桃子
右 / 同 Waraporn A (ワラボン)

安全・衛生・健康

安全衛生基本方針に基づき、社員の安全確保と健康の保持増進を図るとともに、快適な作業環境の形成を促進するために、中央安全衛生委員会をはじめ、右記のように組織し、活動しています。



【2008年度の取り組みと2009年度の目標・課題】

2008年度は、類似災害防止対策として水平展開シートを配付して確認、指導を実施しました。また各職場の安全衛生活動の活性化を図るための活動評価システムを導入し、運用を開始しました。加えて、健康づくり活動を活性化させ、参加者の拡充を図りました。(健康づくりイベント及びセミナー参加者前年比35%アップ)

2009年度は、ロームグループ全体での徹底した再発防止策により、災害の発生を未然に防ぎます。また医務局と連携し、健康づくり活動のさらなる活性化及び効率化で心と体の健康増進を図る予定です。

【安全衛生基本方針】

- 我々は、製品の開発・製造・販売及び輸送の活動において、安全衛生管理に関するすべての法令及び社内規定を遵守するものとする。
- 我々は、設備・機械・原材料・プロセスの安全衛生確保上適正な方法でのみ、製造・販売・輸送及び廃棄を行う。
- 我々は、すべての従業員に対して安全衛生に関する教育・訓練を継続して行うとともに、自ら率先垂範して実践する。
- 我々は、我社の製品及び職場の化学薬品等について、その安全性・健康への影響度を事前評価した上で、従業員及び関係者に周知させる。
- 我々は、危険物等による緊急事態への対処方法の確立にリーダーシップを持って取り組み、社内のみならず地域への影響を防ぐ。
- 我々は、すべての従業員の健康確保に努め、快適かつ健康的な職場の形成を推進する。
- 我々は、継続して自主的に上記の活動を見直し、適切な改善を行うことにより、安全衛生管理レベルの向上を図る。

■ 14年間休業災害ゼロ達成と無災害記録証の受理

ローム本社は14年間休業災害ゼロを継続しています。2009年1月には労働時間換算で連続6,000万時間に達し、現在も記録更新中です。2004年には労働基準監督署から最上位(第五種)の記録となる「無災害記録証」を受け、今後も災害ゼロを目指した活動を継続していきます。

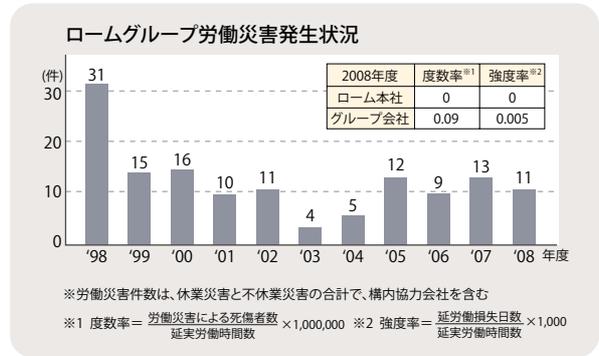


第五種無災害記録証



■ ロームグループ労働災害発生状況

安全衛生活動の充実により、近年は年間事件から十数件の災害件数となっています。



■ 安全衛生教育

定期的な社内安全衛生教育の実施、また社外講習会への派遣により、法的に必要な資格のみならず安全衛生関連の資格取得を推進しています。ロームでは、国家資格である衛生管理者(衛生工学衛生管理者)資格を300名が取得し、また安全管理者や有機溶剤作業主任者についてはのべ1,800名超の社員が教育を修了しています。



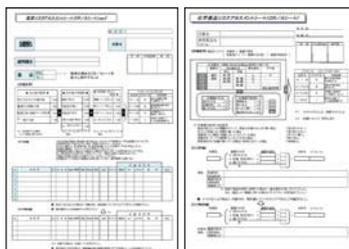
VDT作業管理者講習会(2008.10.8)



ライフゼム講習会(2008.11.14)

■ リスクアセスメント

労働災害の危険の芽(リスク)を事前に摘み取る有効な手段として「リスクアセスメント」を導入し、全社に展開しています。ロームでは、装置及び化学薬品に対するリスク評価を独自の厳しい基準で行い、リスクレベルが許容範囲内となるように対策を実施することを義務付けており、労働災害の未然防止に役立っています。



リスクアセスメントシート

交通安全教育

社内で独自の厳しい社用車免許制度を導入しており、研修や同乗指導を行っています。また、マイカーやバイク、自転車通勤者に対して、交通安全意識高揚のための講習受講を義務付けており、併せて交通事故防止委員会による会社周辺道路及び駐車場・駐輪場パトロールを実施するなど、交通事故防止活動のみならず通勤マナー向上の啓蒙活動も実施しています。



交通安全講習会(2008.9.3)



シートベルトチェック(2008.8.20)

社内パトロール

安全衛生監査及び各専門部会パトロールにより、職場の環境、作業の不具合を抽出し是正しています。また、巡視衛生管理者を職場ごとに選任し、各職場の衛生環境状況を週1回チェックするとともに、別途行われる産業医によるパトロールでは、社員の愁訴の有無を確認し、健康管理面でのフォローアップを行っています。



トップパトロール(2008.12.22)



産業医パトロール(2009.3.24)

ロームグループの安全衛生活動連携

国内外の全生産拠点のグループ会社の安全衛生担当者が集まり「安全衛生実務担当者会議」を開催し、グループ全体として安全衛生意識を高め、安全衛生に関する意思統一を図っています。なお、本会議は半年に1回開催しており、2008年10月で25回を迎えました。



第24回 ロームグループ安全衛生実務担当者会議/ローム福岡(2008.4.10~11)



新型インフルエンザ対策

ロームでは新型インフルエンザ対策として、2008年10月に新型インフルエンザ対策準備委員会を立ち上げ、マスク、食料等の備蓄、社員への家庭用備蓄品のあっせん、ロームグループ共通の対策マニュアルの作成及び教育、事業継続計画の作成等を推進してきました。これにより2009年4月に発生した新型インフルエンザに対してもロームグループ全体でスムーズに対応することができました。



マスク着用訓練(2009.1.22)



手指消毒液の設置

AED(自動体外式除細動器)

社内にAED(自動体外式除細動器)を建物ごとに設置しており、多くの社員がいざというとき慌てず取り扱えるように講習会を定期的に開催し、数百人規模でAED取扱い可能者の養成を図っています。



AED設置事例



AED取扱い講習会(2008.12.22)

メンタルヘルス対策

社員のメンタルヘルス対策として、セルフケアとラインケアのメンタルヘルス研修の実施や、全社員にパンフレットやチラシ等を配付し、啓蒙活動を行っています。また、医務局にメンタルヘルス相談窓口を設置しており、それに加え、外部機関と契約し、社員とその家族が利用できるカウンセリングサービス(EAP)とストレスチェックサービスを導入しています。



管理者向けメンタルヘルス研修(2008.9.24)



ストレスケアセミナー(2008.7.11)

作業環境測定の実施

社員の健康障害予防のため、特殊健康診断を実施し、加えて作業環境測定を定期的に行っています。20年以上にわたり、ローム本社のすべての作業場(現在は122箇所)において、作業環境管理の状態として適切である“第1管理区分”となっています。

株主・投資家の皆さまとのかかわり

ロームでは、株主・投資家の皆さまが重要なステークホルダーであるとの認識のもとに、企業価値の創造と向上を目指しています。株主さまへの利益配分については、業績、財務状況及び将来の企業価値向上に向けた事業投資のための資金需要等を総合的に勘案したうえ、その期待に応えられるような施策を推し進めています。

【2008年度の取り組みと2009年度の目標・課題】

ロームは2007年4月に新たな株主還元方針を発表し、2010年3月期までの各年度において、連結フリーキャッシュフローの100%を下回らない額を、配当及び自己株式の取得を通じて株主の皆さまに還元することとしています。ロームでは、株主の皆さまが当社の重要なステークホルダーであるとの認識のもと、今後もこの方針に従って自己株式を取得していく予定ですが、手元の自己株式が増加する状況で、その保有・活用に関する基本方針を明確にすることで、株主の皆さまへの説明責任を果たすことが重要と判断しました。具体的には、保有する自己株式の上限は発行済株式総数の5%を目安とし、現時点(2009年3月末)においてすでにこれを超過している部分については、速やかに消却します。また、今後取得する自己株式については、原則として毎期末に消却することとします。なお、残る手元の自己株式は、将来のM&A等に備えて継続保有することとします。

株主還元の実績

配当金の推移					
(年度)	2004	2005	2006	2007	2008
(円)	85	90	100	230	130

1株当たり当期純利益の推移					
(年度)	2004	2005	2006	2007	2008
(円)	380.22	416.39	413.57	284.66	89.76

IR活動

世界中の株主・投資家の皆さまに対して公正で正確な、また理解しやすい情報をタイムリーに開示する等のIR活動を通じて積極的なコミュニケーションを図っています。

ホームページによる情報開示

個人投資家の皆さまにもタイムリーに理解しやすい情報を提供するため、ホームページに投資家向けのコーナーを設置し、決算短信・有価証券報告書等の法定開示書類に加えて、アニュアルレポート、決算説明会資料、財務指標の推移、財務データの推移等幅広く投資関連情報を掲載しています。



ホームページでのIR活動



アニュアルレポート

<株主・投資家情報> <http://www.rohm.co.jp/financial/index-j.html>

決算説明会、インフォメーションミーティング

ホームページの情報開示に加えて、リサーチアナリストやファンドマネージャー等の機関投資家に対して説明会を開催するとともに、海外の投資家向けにも毎年2回説明会を実施しています。



証券アナリスト・機関投資家向け決算説明会(2009.5.12)

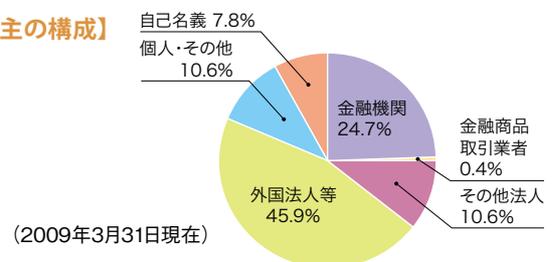


海外での投資家向け説明会(2007.6.8)

株主総会

株主総会の活性化や議決権行使の円滑化に向けて、定時株主総会開催の約3週間前に招集通知を発送しているほか、パソコン及び携帯電話によるインターネットを通じた議決権行使の受付、また、外国人株主判明調査に基づくIR活動・議決権行使促進や、株主総会招集通知の英訳版作成等の取り組みを行っています。

【株主の構成】



社会的責任投資における評価

近年、企業の社会的・環境的・倫理的側面を投資の判断基準とするSRI(社会的責任投資)が拡大しています。ロームのCSR関連活動は、こうしたSRI関連調査機関からも高い評価を得ており、以下のSRIインデックスの構成銘柄に選定されています。2008年度には、SAM Research社が全世界2,500社を対象に実施している「企業持続可能性評価」において上位10%の評価を受け、Dow Jones Sustainability Indexesに選定されました。

ロームが組み込まれている主なSRIインデックス(2009年5月25日現在)

- ・Dow Jones Sustainability Indexes
- ・FTSE4Good Index Series
- ・Ethibel Sustainability Index
- ・MS-SRI(モーニングスター社会的責任投資株価指数)



ROOMグループの社会貢献活動

ROOMグループは、常に地域社会・住民との対話・協調をモットーとし、それぞれの地域活動に積極的に参加しています。

■ 行橋夏祭“こすもつぺ” [ROOM福岡]

夏を彩る提灯火山に参加し、行橋市内を練り歩き、意気込みをアピールしています。祭会場の模擬店(80店舗参加)にも参加し、祭の中核メンバーとして市民行事を支えています。



(2008.8.23)

■ カプトガニを守ろう リフレッシュ瀬戸内 海岸クリーン作戦 [ROOM・ワコー]

海岸クリーン作戦に社員の代表が参加しました。ROOM・ワコーの代表メンバーは、カプトガニ博物館周辺の海岸を清掃しました。今後もより一層環境美化に取り組んでいきます。



(2008.7.28)



■ 地球温暖化防止を図る植樹活動 [REDA]

地球温暖化防止の有効な手段の一つとして、2008年4月3日に地元の「童牛嶺公園」で、社員による植樹活動を行いました。また、公園内にROOMグループの環境方針も設置させていただき、会社の環境への取り組み姿勢を社会に開示しています。



(2008.4.3)



■ 海軍との連携による海上資源保全及び砂浜清掃活動 [RIST]

2008年11月7日にチョンブリー県海軍署が推進している海上資源保全の一環として海亀解放活動及びナンラムビーチでの清掃活動に参加しました。



(2008.11.7)



★PEZAより環境賞を受賞[REPI]

REPIでは、地域の皆さまを集めた環境教育や、河川の清掃活動、植樹活動等、毎月様々な環境貢献活動を行っています。数ある審査項目の中でも、特にこのような地道な社会貢献活動が評価され、フィリピン経済区庁(PEZA)より、環境賞を受賞しました。



アロヨ大統領から直接授与(2009.4.29)

【その他、主なROOMグループの社会貢献活動事例】

清掃活動	畠田東区美化運動	ROOM福岡
	浜名湖クリーン作戦参加	ROOM浜松
	筑後市環境パートナー事業・工場周辺の清掃活動	ROOM・アポロデバイス
	河川美化ノボイ運動	ROOM・アポロ
	会社周辺清掃活動	ROOM・ワコー
	工団周り清掃活動	ROHM Korea
	工場及び従業員駐車場周辺の環境美化活動	RWEM
植林活動	道路の清掃活動	REPI
	工団周辺の植樹活動	ROHM Korea
	タマサート大学の緑地化活動	RIST
	ガーデンチャナプリー県での植林活動	RIST
地域活動	周辺地域の植樹活動	REPI
	仲津校区文化祭参加	ROOM福岡
	行橋市産業祭参加	ROOM福岡
	浜松シティマラソン参加	ROOM浜松
	さわやかウォーキングの開催	ROOM浜松
	浜松市南区わくわくフェスタ参加	ROOM浜松
	ちっこマラソン大会への協賛	ROOM・アポロ
	職場体験「いきいきチャレンジ体験」の実施	ROOM・ワコー
	仲津中学生の「職場体験学習」	ROOM福岡
	タマサートクローニルアン学校・ワンクウ小学校への寄付	RIST
	献血活動	ROOM・アポロデバイス
献血活動	ROOM・ワコー	
タマサートクローニルアン高校生100人交流会	RIST	
少年野球大会の開催	ROOM・アポロ	

社会還元活動

社会の進歩向上に貢献することを企業目的とするロームは、次世代社会を担う人材の育成に積極的に取り組むことが、文化の創造や発信につながると考え、大学との産学連携を中心とした社会還元活動を進めています。

■ ローム記念館プロジェクト

ロームは、社会に有用な新しい技術を開発することが、文化や社会の進歩向上に資するものと考え、国の研究機関、大学、異分野企業等と積極的に広く連携しています。特に産学連携をより深く進めるため、立命館大学、同志社大学、京都大学の敷地に「ローム記念館」を建設・寄贈するというかたちで積極的なプロジェクトの具現化を図っています。



立命館大学ローム記念館
立命館大学
びわこ・くさつキャンパス内
2000年4月開設



同志社ローム記念館
同志社大学京田辺キャンパス内
2003年9月開設



京都大学ローム記念館
京都大学桂キャンパス内
2005年5月開設

清華大学(中国北京市)とローム記念館 「清華ローム電子工程館」の建設について合意

ロームと清華大学は、2006年4月に締結した「包括的産学連携契約」に基づいて、電子デバイスの最先端技術開発に関する積極的な産学連携を行ってきましたが、2011年4月に開催予定の清華大学100周年記念式典に合わせて約20億円を投じてローム記念館「清華ローム電子工程館」を建設することで合意しました。国際的な産学連携をさらに推進するための中核的な拠点として活用される予定です。



清華ローム電子工程館／イメージ図

■ 受け継がれる科学する心

科学するという視点は、エレクトロニクス分野で仕事をする私たちにとって大切なことです。次世代を担う子どもたちにも興味を持ったことや、不思議に感じたことをそのまま終わらせず、コツコツ調べ、学ぶ姿勢を持ってもらおうと様々な活動をしています。

京都モノづくりの殿堂

子どもたちのモノづくりについての体験や興味・関心が希薄になる中「ものづくり都市・京都」の特性を生かし、小中学生がモノづくりを学び・体験する機会を創出することを目的に、京都市立の小・中学生が社会活動を疑似体験できる「京都まなびの街生き方探求館」が、2009年2月12日京都市上京区にオープンしました。

ロームでは、その考えに賛同し探求館内の「京都モノづくりの殿堂」にブース展示をしています。ブースでは、京都市で創業した16企業の創業者の物語や製品開発の苦労話等、子どもたちに分かりやすい展示内容になっています。



ローム展示ブース



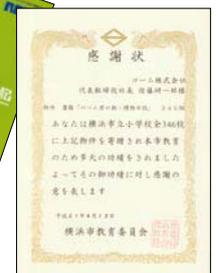
見学の様子

「ローム君の新・博物日記」

ロームでは企業PR広告として、新聞に「ローム君の新・博物日記-世界昔ばなしを科学する-」シリーズを掲載しています。このシリーズではおなじみの世界昔ばなしの中から毎回テーマを1つとりあげ、そこに隠れているいろいろな不思議を科学の視点で見つめています。また、創立50周年を記念し、上・下巻2冊の冊子にまとめ、京都府・滋賀県の公立小学校と公立図書館等へ寄付したほか、イベントやWebでもプレゼントしました。冊子を通じて科学する心を培っていただければと考えています。



ローム君の新・博物日記



横浜教育委員会より感謝状

豊かな心を育む社会・文化支援活動

ロームは、エレクトロニクスを通じて文化の進歩向上に貢献するとともに、「良き企業市民」を目指し、長年にわたって様々な社会貢献活動を続けています。

■ 音楽文化への支援活動

優れた音楽は、人と人を結び、芸術と文化の可能性を実感させてくれる素晴らしい世界です。ロームでは、音楽文化の振興に寄与し、若き才能を育み、音楽を通じて国際交流を高めるために、数多くのコンサートを企画・開催してきました。これからもロームは、さらに幅広い音楽支援活動を目指していきます。

【財団法人 ローム ミュージック ファンデーション】



音楽文化の向上、発展に寄与することを目的に、1991年に設立。音楽活動に対する助成を図るとともに、音楽を専攻する学生に対する奨学援助等を行っています。

ローム ミュージック ファンデーションの活動紹介 京都・国際音楽学生フェスティバル



(2008.5.30)



音楽を通じた国際交流と若き音楽家たちの育成を目的に、世界の代表的な音楽学校から選ばれた学生たちを京都に招き、開催しています。

ローム ミュージック ファンデーション 音楽セミナー

世界的に活躍されている音楽家を講師に迎え、プロの音楽家の育成を目的としたセミナーを開催しています。



(2008.7.25)



(2008.7.24)

ローム ミュージック ファンデーション

SPLレコード 復刻CD集I~IV



- I : 2004年9月発行
- II : 2006年1月発行
- III : 2007年9月発行
- IV : 2009年発行予定

日本における西洋音楽との関わり、その作曲や演奏の歴史を振り返るため、CD集を制作・発行し、音楽学校・図書館等に寄贈しました。

コンサートの開催・支援

世界的な大家から、将来が期待される若手まで、多彩な音楽家のコンサートを開催・支援しています。



■ 一日も早い復興を願って 四川省大地震被害の義援金を寄付

ロームは、中国・四川省大地震に伴う被害に対する復興支援として、中国赤十字会を通じて150万円(約2,150万円)の義援金を寄付しました。また、RSC (ROHM Semiconductor (China) Co., Ltd.) 社内でも自主的な寄付を募り、90,531円(約130万円)が集まりました。



自主的な寄付をするRSC社員

ロームでは、1993年に中国に進出して以降、世界的な供給体制の中心的な生産拠点として中国での事業を展開しています。生産拠点での直接的な被害や生産体制への影響はありませんでしたが、中国で長期にわたり事業展開しているロームグループとして被災地域の一日も早い復興を願って、中国赤十字会への義援金の寄付を実施しました。これにより、天津赤十字社より感謝の意を表した旗、博愛カップと栄誉証書を授与されました。



(2008.5.15)



■ 学生たちの熱い思いを応援して、 京都学生祭典をサポート

“学生のまち京都”で約50大学にもなる学生が中心となって企画し、産学官一体となって“京都学生祭典”が行われています。22万人以上の集客を誇る京都の一大祭典を、ロームは特別パートナーとして支援しています。「京都のまちを学生のパワーでもっと元気にしたい」という学生たちの熱い思いを応援して、地域密着型の社会貢献に取り組んでいきます。



(2008.10.12)

■ 多彩な地域密着型貢献活動

ロームは本社構内や本社周辺の樹木を利用して、毎年11月から12月の約1ヶ月間イルミネーションを実施しています。ローム製の白色LED等を使用した60万個の光の輝きは、冬の夜空を明るく照らし、安らぎに満ちたファンタジーな空間を浮かび上がらせ、地元京都をはじめ関西一円の方々の目を楽しませて

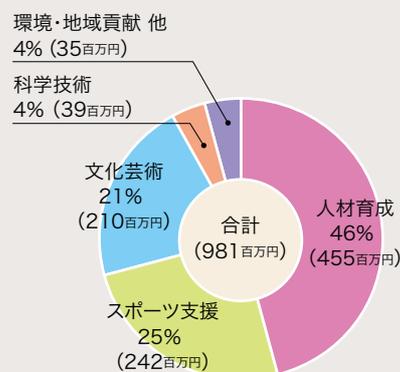


ています。2008年度は京都エコポイントモデル事業を利用した、環境にやさしい電力の使用を実施しました。

■ 経済的な支援

ロームは地域社会の活動や福祉・教育活動等に企業として積極的に参加するとともに、スポーツ・文化芸術活動に協賛することでも社会貢献を行っています。ロームのこれらの活動に対する経済的側面での支援状況は産学連携に対する費用を含めて、2008年度において9億8千百万円となりました。

【社会貢献活動に対する支出の内訳(2008年度)】



TOPICS

★ケランタン州優良事業所表彰受賞

RWEM(ROHM-Wako Electronics (Malaysia) Sdn.Bhd.)では、2008年11月30日に、ケランタン州よりコタバル市民及び周辺企業への労働機会の提供やコタバル市政への積極的協力、笠岡市との友好10周年を評価され、ケランタン州内の特別優秀企業として表彰されました。



グリーン調達

環境にやさしいものづくりは、ロームグループのみが環境負荷物質低減の取り組みをするだけでは不十分であり、あらゆる材料・副資材を納入していただいているお取引先さまにも環境負荷物質低減に取り組んでいただく必要があります。

■ グリーン調達への取り組み

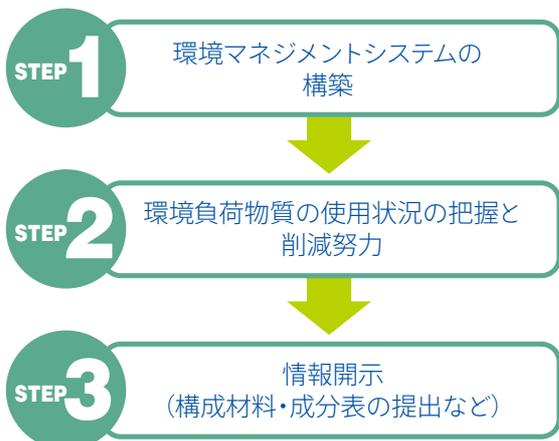
欧州の廃電機・電子機器指令 (WEEE) やRoHS指令、新しく導入されたreach規制に対応するためには、お取引先さまから材料・副資材の成分の確実な情報を提供していただき、使用禁止物質が一切使用されていない保証が必要です。

ロームグループでは、お取引先さまから納入されるすべての材料・副資材において各種環境データの提出をお願いし、環境負荷物質情報を的確に把握できる体制をとっています。また、より一層グリーン調達を推進するために、お取引先さまの環境監査や環境管理体制自己評価表等をご提出いただき、お取引先さまとともに国内外に通じる環境にやさしい



グリーン調達および禁止物質管理についての説明会の様子/RIST (2008.5.15)

ものづくりに取り組んでいます。



■ ロームグリーン調達基準

ロームでは、環境負荷がより少ない製品を製造するため、2006年度に「グリーン調達基準書」、及び「環境負荷物質内容及び作成要領」の改定を行い、ロームグループすべてのお取引先さまに、環境管理システムのより一層の強化をお願いするとともに、納入いただく材料・副資材すべてに対してロームが規定した使用禁止物質の不使用・非含有の保証をお願いしております。また、製品を構成する材料、部品すべての構成要素についても、環境負荷物質の情報を的確に把握し、使用禁止物質が製品に混入しない仕組みを構築しています。今後も管理体制のより一層の強化と、お取引先さまとの相互理解を深め、環境に配慮した製品づくりに努めていきます。



グリーン調達基準書

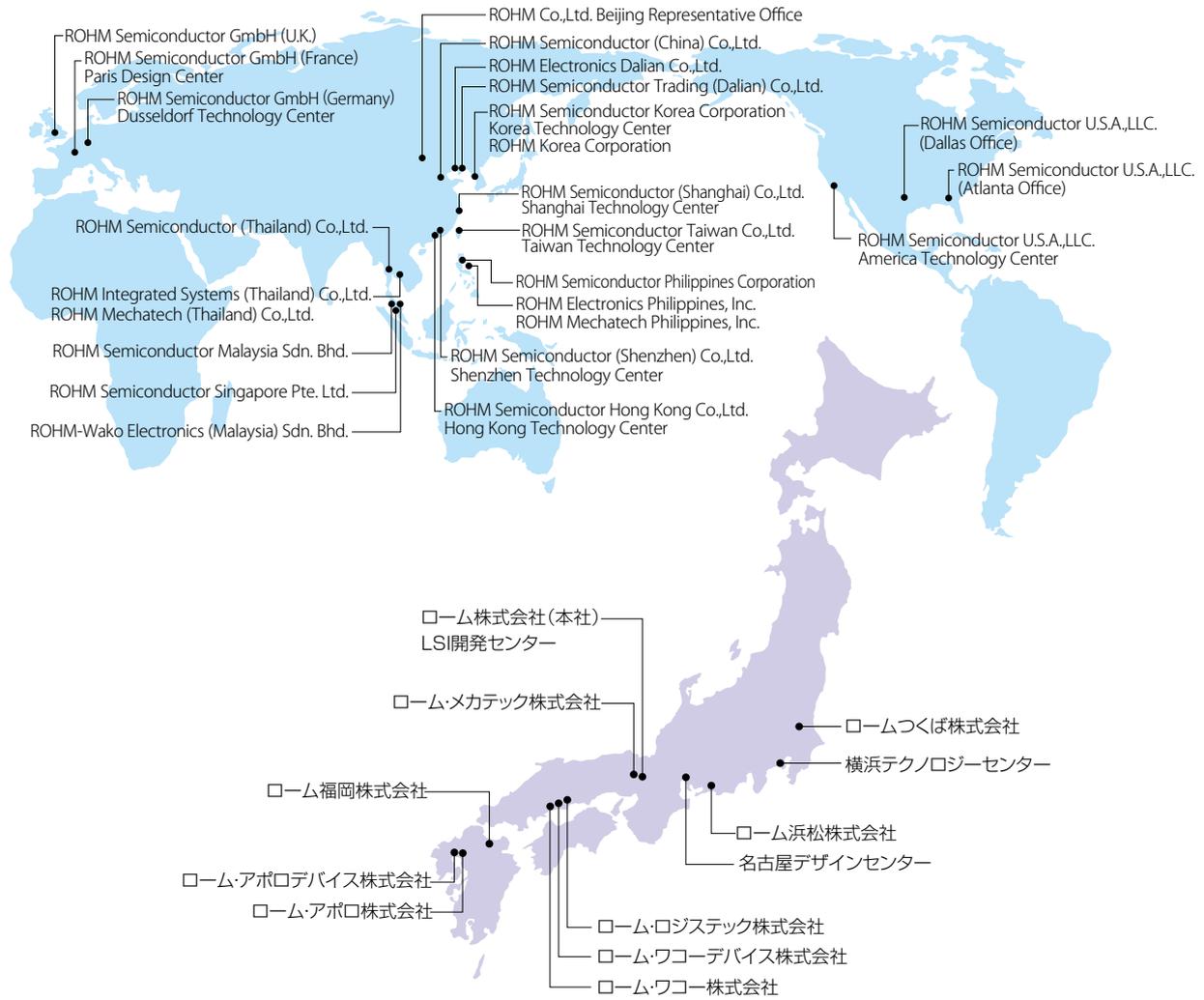


環境負荷物質調査内容及び作成要領 (Rev.C)

★「環境データブック」のホームページ掲載について

ロームでは、どの立場のステークホルダーの皆さまに対しても、より理解しやすい報告書となるよう心がけています。よって本報告書より、環境に関する詳細情報を独立させ、環境については最もお伝えしたい情報のみ掲載しています。環境に関する詳細な情報はホームページよりご覧ください。※2009年7月頃掲載予定 [URL] <http://www.rohm.co.jp>

ロームグループ一覽



国内関係会社



ローム浜松株式会社
〒435-0038 浜松市南区三和町10



ローム・ワコーデバイス株式会社
〒714-0092 岡山県笠岡市富岡55



ローム・アポロデバイス株式会社
〒833-0033 福岡県筑後市大字上北島883



ロームつくば株式会社
〒300-3293 茨城県つくば市北原10



ローム福岡株式会社
〒824-8555 福岡県行橋市大字稲壁
字畠ヶ田837-1



ローム・ワコー株式会社
〒714-8585 岡山県笠岡市富岡100



ローム・アポロ株式会社
〒834-0111 福岡県八女郡広川町広川
中核工業団地内



OKIセミコンダクタ株式会社
製造拠点：八王子、宮城、宮崎、タイ



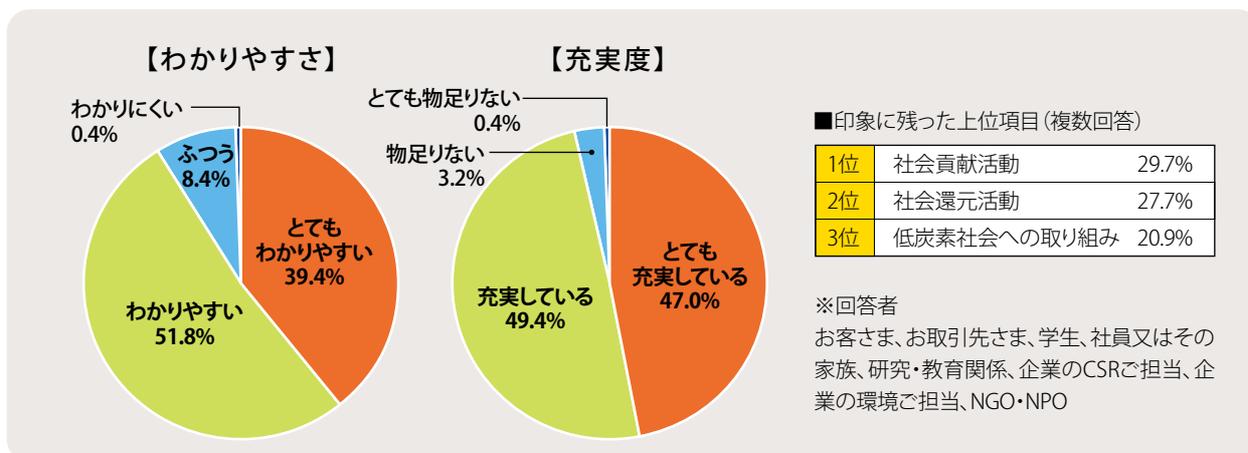
ローム・メカテック株式会社
〒621-0011 京都府亀岡市大井町
土田3-21-10



ローム・ロジステック株式会社
〒719-0234 岡山県浅口市鴨方町益坂75

CSRレポートアンケート結果

ロームでは、2008 CSRレポートに対して、249件のアンケートのご回答をいただきました。アンケート回答へご協力いただいた皆さまへ厚くお礼申し上げます。



主なご意見とロームのコメント

レポートについて

ご意見

- 内容がしっかりとしているので、一冊読むのは少し大変だと思う
- もう少し、ページ数を少なくすれば、よりじっくり目を通しやすいと思う

▶▶▶コメント

ロームの年度ごとの主要な取り組みを分かりやすくお伝えできるよう、冊子でのダイジェスト版とWEBでの詳細版をご覧いただけるよう、本報告書より実施しました。

ご意見

- 社員の顔写真やコメントを掲載してほしい
- 社員の声が知りたい

▶▶▶コメント

実際の社員の顔写真を掲載し、ロームの「顔」が見える報告書とし、親しみやすさを感じていただけるようにしました。

その他ご意見

ご意見

- 地域住民とのさらなる一体化を進めていってほしい

▶▶▶コメント

今後は地域へのボランティア活動など、地域の皆さまとの、さらなるコミュニケーションを図っていきます。

ご意見

- 製品についてのレポート記載がもっとほしい
- 製品についてもっとページを割いてはどうか

▶▶▶コメント

CSRの観点からみてロームが力を入れており、幅広いステークホルダーの方にご理解いただきやすい製品を特集記事として掲載させていただきました。

ご意見

- タイトルはCSRレポートだが、どちらかというと環境マネジメントレポートに重きが置かれていると思う

▶▶▶コメント

本報告書より、環境に関する情報を別途「環境データブック」として切り離し、専門的な用語を少なくし、幅広いステークホルダーの皆さまにお読みいただけるよう工夫しました。

ご意見

- 社内外でのCSR啓蒙活動を期待する

▶▶▶コメント

まずは、社内よりロームのCSRを一層啓蒙し、社外へも展開していきたいと考えています。

ロームではCSR活動を進めていくにあたり、ステークホルダーの皆さまからのご意見・ご感想を、重要なものとして受け止めています。今後も、幅広いステークホルダーの皆さまのご意見をお聞かせいただき、CSR活動やCSRレポートの改善に活かしていきます。

この報告書に関するご意見・ご感想をお聞かせ下さい。

ローム株式会社 環境管理部 CSR推進室 FAX:075(311)1318 E-mail:webmaster@rohms.co.jp

